



コミコミスク

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 169

2022

7.22

子どもたちの学びをつなげたい！



“かわのまちほいくえん”（加古川市、運営：NPO 法人シミンズシーズ）の Facebook に子どもの学びのあり方を考えさせられる興味深い書き込みがアップされていました。

[\(https://greenz.jp/2022/05/31/npo_seeds_kawanomachihoiku/\)](https://greenz.jp/2022/05/31/npo_seeds_kawanomachihoiku/)

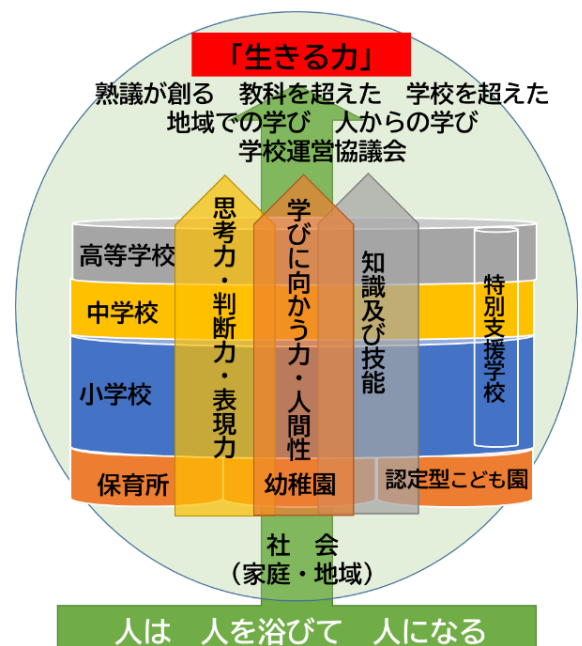
子どもたちが商店街を散歩する中で目についたゴミに関心を持ったことから子どもたちの学びがスタートです。

落ちていたゴミが気になり始めた子どもたちは、散歩のついでにゴミ拾いを始めます。ゴミを拾いながら、こんなゴミ

があったといった話を友だちとかわしていたと思います。そして、タバコの吸い

殻が多いことに気が付き始めます。そしてどうしようとの相談する中で、街の人に呼びかけようということになり、ポスターをつくり始めます。ポスターをつくりながら自分が見た、吸い殻やゴミの様子の情報を交換しながらポスターをつくり上げていったようです。ポスターを張る場所も普段からお世話になっている街の人の力を借りながら張らせてもらったようです。“かわのまちほいくえん”が商店街とつながり、そのつながりの中で子どもたちは社会とつながっていきます。こうした一連の流れは、学びは遊びの中から生まれることを教えてくれています。そして何より子どもたちが地域の中で地域の人に見守られながら育っていくことが見えてくるのではと思います。ただ何となく見えていたものに対して、自分から働きかけることによってフォーカスをあて見つめ始めることで学びが始まっていくんですね。「人は 人を浴びて 人になる」地域はそんな場なんですね。

子どもたちは散歩しながらいろいろなことを感じます。感じ方は子どもたちによってそれぞれ違いますが、その感じたことを出し合う中で自分の中で考えをつくり上げ、友だちと共有していきます。見た・感じた情報を主体的に解釈し、それを対話の中でシェイプアップし、創り上げた知識を使ってみて、フィードバックするというスパイラルが回っているように感じます。ただ、子どもたちはこんな難しいことは考えていません。日常生活の中の出来事であり、遊びの延長だと思っていると思います。こうした子どもにとっての遊びが学びの原点になっていくのだと思います。このような幼児の段階で始まった学びを保・幼・小・中・高を貫く3本柱としてとらえているのが、今回の保育要領・学習指導要領等の改訂の特徴だと考えます。こうした幼児期の学びをつ



なぎ、深めていける教育課程になっているか見直してみるのはいかがでしょうか。



こうした幼児期の学びが小学校に入ってどういった学びになっていくかを考えたとき、参考になるのが松が丘小の取組ではと考えます。松が丘小2年の取組を例に考えてみます。

松が丘小の2年生は生活科で野菜の栽培を始めます。野菜をつくるのは収穫した野菜を販売し、自分たちが中庭の池に放流する、ホテルの幼虫を購入する資金にしようという目的を持っています。そのためには買ってもらえる野菜を、ある程度の数量つくる必要があります。そこで、子どもたちは地域の野菜作りの名人に助けを求めます。この名人は子どもたちが保育所や幼稚園の時から、サツマイモや玉ねぎの栽培でお世話になっています。1年生の時にもサツマイモでお世話になっており、スクールガードさんでもあるので顔見知りの間柄です。そして苗植えの段階からアドバイスをもらいながら、ある程度大きくなると、今度はサツマイモ畑がある松が丘ガーデンに鉢を移動させ、よりしっかり育つようアドバイスをもらいながら、業間休みに交代で松が丘ガーデンでの水やりが始まります。松が丘ガーデンにいくと名人だけでなく、他にも地域の方がおられ、野菜の

こと、花のこと・・・、たわいもない会話がかわされます。幼稚園・保育所、そして1年生はまだまだ受け身の立場ですが、この活動で2年生は主体的に野菜を育てる当事者としてステップアップしていきます。松が丘ガーデンでは名人を含め地域の大人たちが自分たちに野菜づくりの技量を思いっきり子どもたちに見せてくれます。そして、鉢植えとは思えない本格的な野菜畑に変身し、子どもたちは収穫に追われていきます。収穫したキュウリ・ナス・ピーマン・ミニトマト・インゲンを業間休みに不定期で開かれる「まつっ子マルシェ」で販売します。そして算数で売り上げを計算したりとまだまだ学習は続いていきます。幼稚園・保育所での栽培活動が地域の方が絡むことで連続性が生まれて、一つの物語がつくり上げられていきます。こうした学び方を積み重ねていくことで学校だけでは育たない「生きる力」が培われていくのだと思います。「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」「知識及び技能」の3本柱を保・幼・小・中・高とつなげていくためには、「教科を超え、学校を超えた地域での学びや人からの学び」が必要だと考えます。



子どもたちの日常の中から生まれてきた、かわのまちほいくえんの取組も、地域の中で人とつながりながら一つの物語になっていくんだろうなと思います。こうした日常の中で始まる遊びが学びの原点なんだと考えます。こうした学びが小・中・高とつながっていけばと願っています。

この夏「松が丘いどばた会議」が開催されます

地域と学校の
松が丘いどばた会議

○日時 2022年8月24日(水) 14:00～15:30

○会場 あさざり・おおくら総合支援センター
会議室B・C

○参加者 地域の方々、松が丘小学校教員

地域の未来を担う子どもたちについて、松が丘校区のこれからの課題について、一緒にお話しませんか？
わたしたち教員は地域のことをもっと知りたいです。学校のことをもっと知ってほしいです。たくさんの方々の参加をお待ちしています。



8月24日に松が丘小コミュニティ・スクールとして初めての教職員と地域の皆さんとの対話があさざり・おおくら総合支援センターで開催されます。これは、昨年度の松が丘プロジェクト等地域学習を進める中で、なぜ今こうした活動が必要なのか地域の方と対話する必要性や、地域学習を進めるにあたって自分たちが地域の方をもっと知ることが必要という声から先生方の中からあがり、計画されたものです。本番では明石コミュニティ創造協会のスタッフのファシリテートでどんな対話がおこなわれるか楽しみです。松が丘小の先生方は初めてのことであり、ちょっぴり不安もあるようですが、大人の主体的対話的で深い学びを体感できるのではと期待しています。(文責:北本)